

中長期利用 イタリアンライグラス 4倍体

中晩生品種 「ヒタチヒカリ」

「耐倒伏性」「再生良好」「多収品種」の三拍子

○輸入粗飼料価格の高騰対策には、自給飼料の増産が不可欠です。「ヒタチヒカリ」は刈取り回数2～3回の中長期間利用に最適な特性を持っています。



「ヒタチヒカリ」と「ヒタチアオバ」の1番草倒伏状況（平成6年5月13日）

左：「ヒタチアオバ」

右：「ヒタチヒカリ」

○栽培適地

多雪地帯（根雪期間約60日以上）を除く東北南部から九州地域

○播種量（10a当たり） ・ 秋播き：3.0～4.0kg

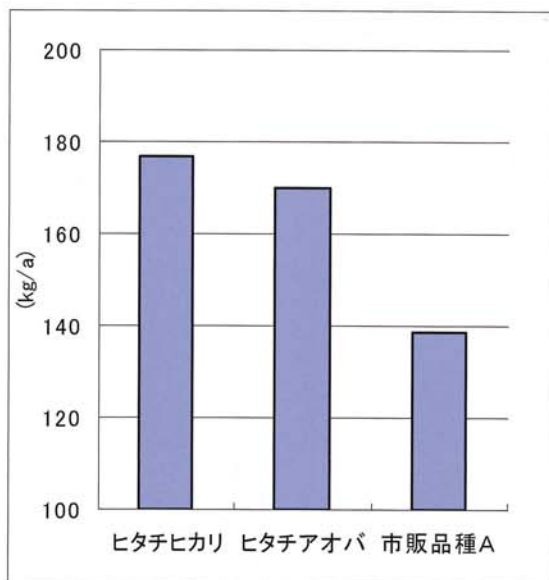
・ 遅まきの場合は5割増しで播種する。

○主な特徴

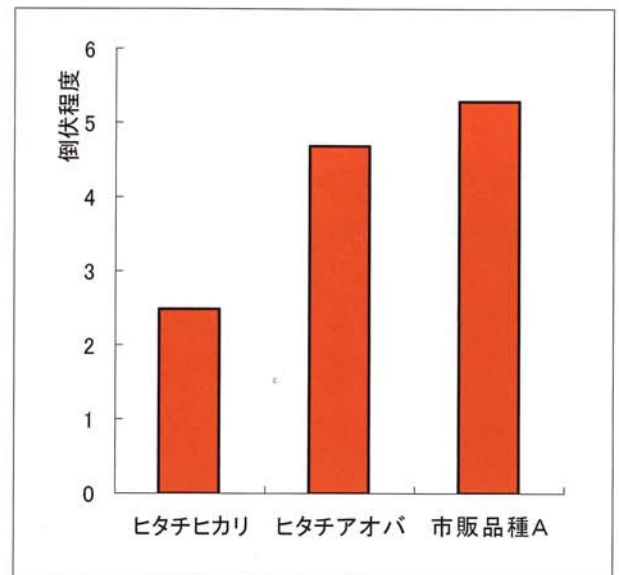
○耐倒伏性は晩生品種中「最強」です。ロールベール体系など機械作業による収穫ロスが少なくなります。

○再生、耐病性が良好なため、2, 3回の収穫が可能で、既存品種より多収です。

○耕起, 施肥が行える草地や畑地, 転作田で採草や乾草に利用します。



乾物収量 (春1番草～3番草)



1番草の倒伏程度 (1極少～9甚)

○栽培上の留意点

○本品種は越夏しないので梅雨明け以降は耕起してください。

○刈り遅れても倒伏は比較的少ないが、栄養価の低下、刈取回数が減少するため収量性の低下、病害の発生に面から適期（出穂始めから出穂期）刈りを行いましょう。

○晩播適性が高く、播種期の幅は広いですが、春播性は低いので秋播きをおすすめします。

○多肥条件でも倒伏は少ないですが、硝酸態窒素蓄積などのために栽培基準の施用をおすすめします。

*** こんなところで使ってみたらいかがでしょう。是非、お試しください。**

○梅雨明け前まで 年2～3回利用したいロールベール収穫体系による大規模栽培。

【育成機関】 問い合わせ先：

茨城県畜産センター飼養技術研究室

TEL：0299-43-3333